わたしの避難計画

# 避難の知識ブック

（磐田市版）

災害についての 理解を深めよう ！



# 目 次


災害リスクについて　P3

避難のタイミング・避難に関する情報について　P6

避難先について　P9

避難行動について　P10

# 災害リスクについて

## 地震・津波

地震のハザードマップは、地震が発生した場合の震度（揺れ方）や液状化の危険性、津波による浸水の深さなどを色別に示しています。

### ○震度（揺れ方）

強い揺れにより、建物やブロック塀などが倒壊し、身体に危害が生じるおそれがあります。

| 震度5弱 | 震度5強 | 震度6弱 | 震度6強 | 震度7 |
|---|---|---|---|---|
| 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる | 物につかまらないと歩くことが難しい | 立っていることが困難になる | 這わないと動くことができない | 耐震性の高い木造建物でも傾くことがある |

### ○液状化

地震によって地盤がやわらかくなり、安定性を失う現象。
埋立地や旧河道等で発生しやすく、液状化すると建物が沈下したり、道路では段差やマンホールの浮き上がりが発生するなど、避難の際に通行の妨げとなる可能性があります。



### ○津波

強い地震（震度4程度以上）を感じたとき、または弱い地震であっても長時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに高台などの安全な場所へ避難しましょう。



| 津波の高さ | 状況 |
|---|---|
| 2m以上 | 木造家屋の半数以上が全壊する |
| 1m以上 | ほどんどの人が亡くなる |
| 30cm以上 | 避難行動がとれなくなる |

津波はわずかな高さでも身体に危害が生じるおそれがあり、繰り返し何度も襲ってきます。津波が襲ってくる前に、いち早く避難することが重要です。

河川氾濫、土砂災害、地震・津波のハザードマップは、静岡県の防災アプリ「静岡県防災」でも確認することができます。

静岡県
防災アプリ

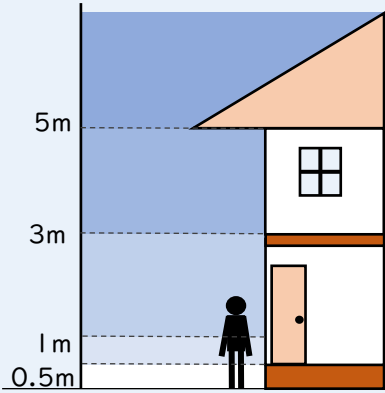
# 災害リスクについて

## 河川氾濫

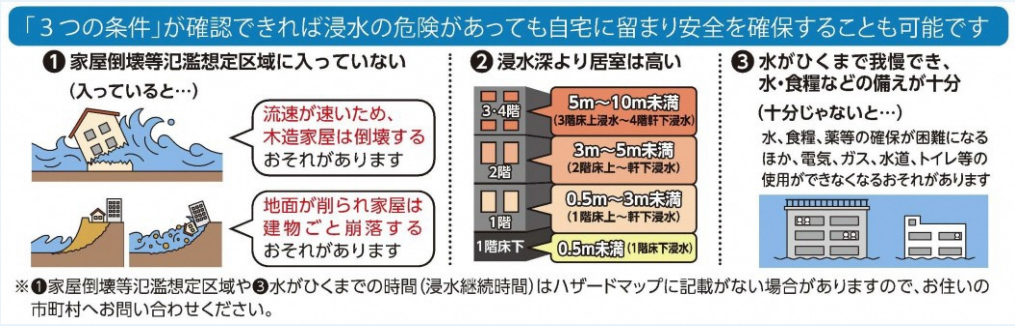
河川氾濫のハザードマップは、大雨で河川が氾濫した場合に、どの位の深さで浸水するかを色別で示すとともに、氾濫した水の勢いで家が倒壊するおそれがある範囲を示しています。

### ○浸水深と避難の目安

| 浸水深 | 実際の状況 |
|---|---|
| 5～10m | 2階の軒下以上が浸水する |
| 3～5m | 2階の軒下程度まで浸水する |
| 1～3m | 床上から1階程度まで浸水する |
| 0.5～1m | 1階床上が浸かる程度まで浸水する |
| 0.5m未満 | 大人の膝下程度まで浸水する |




浸水のおそれがある場合は、浸水しない安全な場所へ避難が必要です。
ただし、以下の「3つの条件」が確認できれば、浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。




### ○注意点

河川が氾濫していなくても、大雨で雨水が川に排水できず、低い土地が浸水する場合があります。
自宅周辺で大雨が降っていなくても、上流に降った大雨で河川が氾濫する場合があります。

# 災害リスクについて

## 土砂災害

土砂災害のハザードマップは、大雨で土砂災害が発生した場合に被害のおそれのある範囲として、土砂災害防止法に基づく「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」に指定されている範囲を示しています。

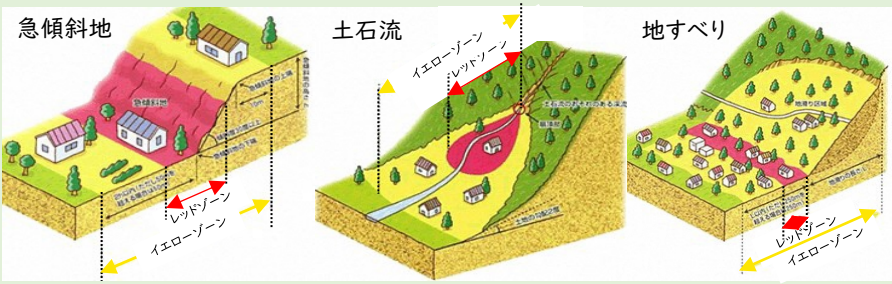
### ○指定区域の種類

土砂災害**特別**警戒区域(レッドゾーン)

・土砂災害が発生したときに**建物の破壊**が生じ、身体に**著しい**危害が生じるおそれのある地域

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

・土砂災害が発生したときに生命や身体に危害が生じるおそれのある地域




### ○特徴と前兆現象

土砂災害には以下の特徴があり、いずれも発生してから避難することが難しいので、事前に土砂災害のおそれがある場所から立ち退き、安全な場所へ避難することが必要です。

・崖崩れ　突然斜面が崩れ落ちるため、逃げ遅れる人が多く被害が大きい

前兆現象　崖にひび割れができる、小石が落ちてくる、地鳴りがする　など

・土石流　時速20～40㎞の速さで土砂が押し寄せ、一瞬で建物を破壊する

前兆現象　山鳴りがする、腐った土のにおいがする、川の水が濁る　など

・地すべり　広範囲で土砂が動くため、被害の範囲が大きい

前兆現象　崖や斜面から水が噴き出す、井戸水・沢の水が濁る　など

# 避難のタイミング・避難に関する情報について

## ○避難の参考になる情報（津波）



津波による浸水のおそれがある場所にいる人は、地震で強い揺れを感じたら、磐田市からの避難情報にかかわらず、直ちに避難する必要があります。
また、強い揺れを感じなくても、津波注意報など（下表）の情報が発表されたら、直ちに避難する必要があります。

| 種類 | 発表される津波の高さ | | とるべき行動 |
|---|---|---|---|
| | 数値での発表 | 巨大地震の場合 | |
| 大津波警報（特別警報） | 5m（3m<予想高さ≦5m） | 巨大 | ・沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルに避難する |
| | 10m（5m<予想高さ≦10m） | | |
| | 10m超え（10m<予想高さ） | | |
| 津波警報 | 3m（1m<予想高さ≦3m） | 高い | ・沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルに避難する |
| 津波注意報 | 1m（0.2m≦予想高さ≦1m） | （なし） | ・海の中にいる人はただちに海から上がり、海岸から離れる |

# 避難のタイミング・避難に関する情報について

## ○磐田市から発令される避難情報

磐田市から発令される避難情報は、「高齢者等避難」、「避難指示」、「緊急安全確保」の3種類です。
災害リスクがある場所にいる人のうち、避難に時間がかかる人は「高齢者等避難」、それ以外の人は「避難指示」が避難のタイミングになります。

| 避難情報 | 警戒レベル | 住民がとるべき行動 |
|---|---|---|
| 緊急安全確保 | レベル5 | ・ただちに命を守る最善の行動をとる<br>※高層階や強固な建物・高い建物に避難する |
| 避難指示 | レベル4 | ・全ての住民が避難を完了させる |
| 高齢者等避難 | レベル3 | ・高齢者等の避難に時間がかかる人は避難を開始する |

## ○避難の参考になる情報（河川氾濫）



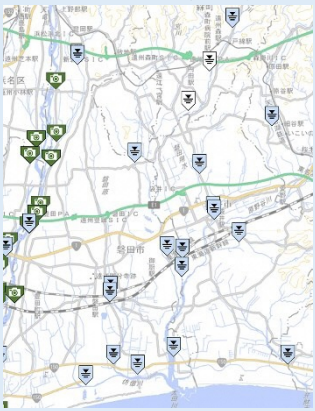
国や県が管理している河川では、川の水位の状況や洪水予報（今後の見込み）を発表している河川があります。
また、川の水位の様子をカメラで公開している河川もあります。
これらの情報を活用して、磐田市からの避難情報を待たずに自主的に避難行動することも重要です。

| 情報 | 発表基準 | 住民がとるべき行動 |
|---|---|---|
| 氾濫発生情報<br>(洪水警報) | 氾濫の発生 | ・ただちに命を守る最善の行動をとる<br>※河川や水路から離れ、高層階や強固な建物・高い建物に避難する |
| 氾濫危険情報<br>(洪水警報) | 氾濫危険水位に到達 | ・自治体からの避難指示の発令に留意し、発令されていなくても早めに避難をする |
| 氾濫警戒情報<br>(洪水警報) | ・一定時間後に氾濫危険水位到達が見込まれる<br>・避難判断水位に到達し、水位上昇が見込まれる | ・自治体からの高齢者等避難の発令に留意し、高齢者以外の方も避難準備ができ次第、避難の判断をする |
| 氾濫注意情報<br>(洪水注意報) | ・氾濫注意水位に到達し、水位上昇が見込まれる | ・災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認する |

# 避難のタイミング・避難に関する情報について

国交省の**川の防災情報**で川の水位やカメラ映像が確認できます。

二次元バーコード
（川の防災情報）



凡　例
河川カメラ
水位観測

国土交通省　川の防災情報

## ○避難の参考になる情報（土砂災害）

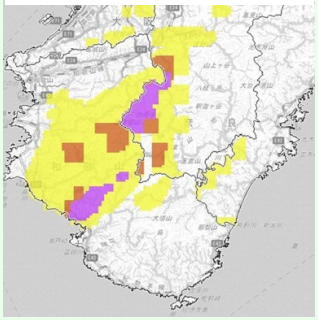
**土砂災害警戒情報**

大雨により、命に危険が及ぶ災害が発生してもおかしくない状況になったときに、県と気象台が共同で発表するものです。

特に危険度が高まっている地域について、気象庁の**土砂キキクル**で確認できます。土砂キキクルが**「危険」(紫)**の地域で土砂災害（特別）警戒区域にお住まいの方は、速やかに避難を開始しましょう。

二次元バーコード
（キキクル）

土砂キキクルのイメージ

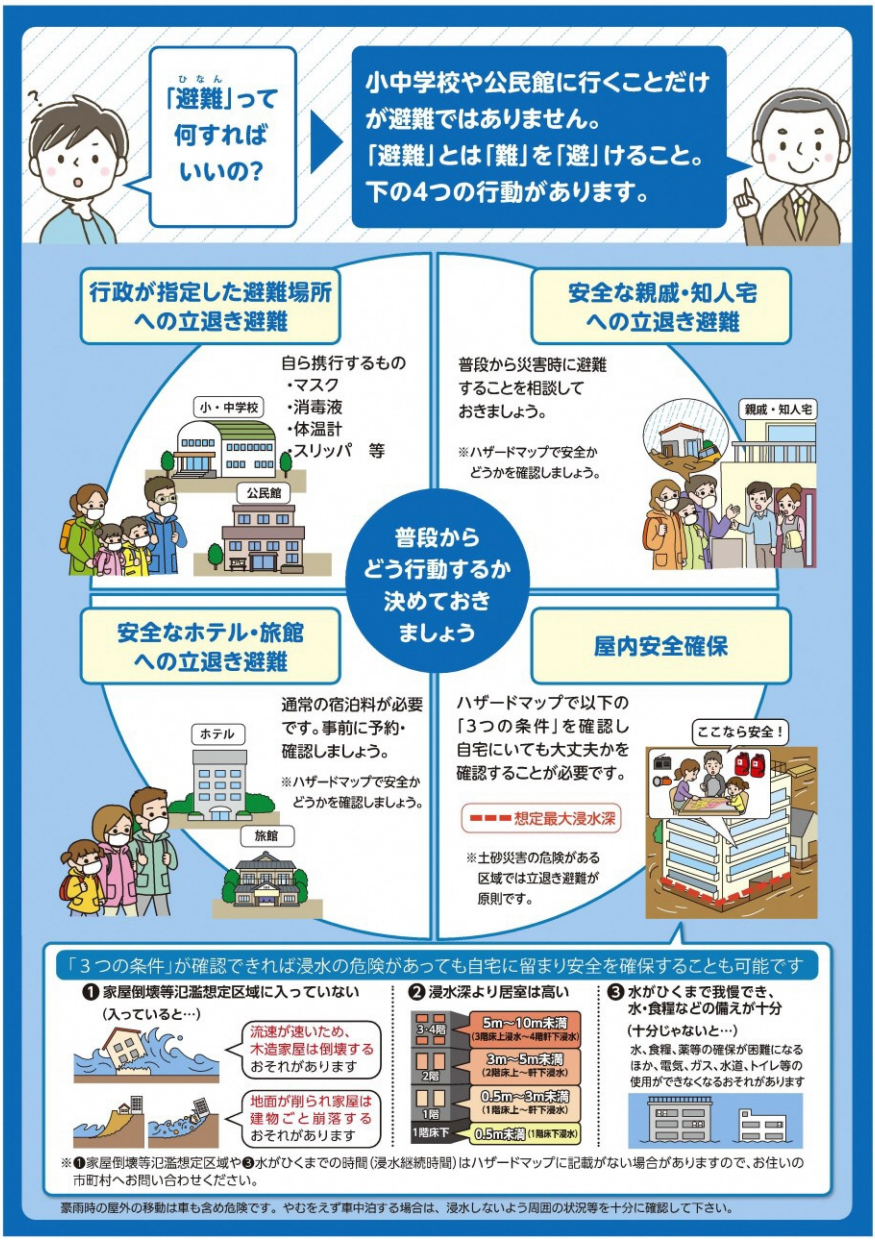


出典：気象庁　ホームページ

| キキクル | 住民がとるべき行動 |
|---|---|
| 災害切迫（黒色） | ・命の危険　直ちに身の安全を確保する。<br>※命に危険が及ぶ土砂災害が切迫、またはすでに発生している可能性が高い状況 |
| 危険（紫色） | ・土砂災害警戒区域外の安全な場所に全ての住民が避難を完了させる。 |
| 警戒（赤色） | ・避難に時間がかかる人は土砂災害警戒区域外へ避難を開始する。 |
| 注意（黄色） | ・避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。 |

# 避難先について

## ○避難先の選び方



# 避難行動について

## ○避難時の持ち物の準備

- 発生時にいち早く避難できるよう、日頃からリュックなどに必要なものを入れて玄関などに準備しておきましょう。
- 以下から必要なものを選択し、実際にリュックにつめ、重さを確認しましょう。

## ○非常持出品の例


□ 現金・通帳


□ マスク


□ 携帯ラジオ


□ 懐中電灯


□ 常備薬・持病薬


□ 着替え


□ 携帯電話・充電器


□ 毛布


□ 飲料水



□ 非常食

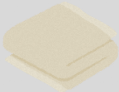

□ 印鑑


□ レジャーシート


□ 雨具


□ 救急セット


□ マッチ・ライター


□ タオル


□ 体温計


□ 消毒液



・女性では生理用品、乳幼児がいる家庭では、ミルクやおむつなども必要になります。
・ほとんどの物がホームセンターや100円ショップで購入できます。

## ○避難先での生活



- 冷房・暖房の無い避難所もある
- 電気の供給が止まることがある
- 慣れない生活で、肉体的・精神的な疲労が予想される
- 開けてから時間が経過した食べ物は食中毒になる可能性がある
- 食料品・日用品が支給されるまでに時間がかかる場合がある
- 仕切りが無く、プライバシーが確保される空間になっていないことがある

# 避難行動について

**〇避難経路の点検**

「わたしの避難計画」で決めた避難先へ向かう経路についてハザードマップで確認してみましょう。
普段とは異なり、大雨が降っている中での避難、地震が起こってからの避難を想定し、移動中にどのような危険があるかを考え、最も安全な経路を調べておきましょう。
安全な避難が難しい場合は、大雨になる前に避難するなど避難のタイミングを早めたり、別の避難先にするなど「わたしの避難計画」を見直しましょう。

**危険な場所の例**

**・水路や側溝**
大雨や夜間（停電時）では道路との境界が見えにくく転落のおそれがある

**・橋**
大雨で河川が増水して渡れないおそれがある
地震で橋が落ちたり、段差が生じたりして渡れないおそれがある

**・川や土手**
大雨で氾濫したり、津波がさかのぼってくるおそれがある

**・崖のそばや低い土地の道路、アンダーパス**
がけ崩れや冠水により通行できないおそれがある

**・古い木造住宅や道幅の狭い道路、ブロック塀、自動販売機など**
地震による倒壊、転倒により通行できないおそれがある